

湯郷将和
ゆ ぎょう まさ かず萩市
(1931～1988)

湯郷将和は、昭和十九年、旧制萩中学校に入学した。卒業後は山口大学に入学したが、三カ月後に中退し、上京して二松学舎大学中国文学科に進んだ。

昭和五十六年、五十歳の時、『遠雷と怒濤と』で第一回放送文学賞を受賞した。彼の死後出版された『キサク・タマイの冒険』は、「世に有名な人ではなく、誠実で気骨のある人物を発掘して世間に知らせたい」という考えで書かれた作品である。また、死の直前まで書き続けた「開花堂盛衰記」は、没後、妻の洋子により一部加筆され、大河小説『黎明』と改題して出版された。この作品こそ、まさに作家・湯郷将和のライフワークである。
(山本孝夫)

【主な著作】

『遠雷と怒濤と』（日本放送協会、昭和57年）

『キサク・タマイの冒険』（新人物往来社、昭和64年）

『黎明』（叢文社、平成15年）